

第52回宇宙政策委員会 議事録

1. 日時：平成28年8月26日（金） 13:30-14:00

2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

葛西委員長、松井委員長代理、青木委員、遠藤委員、後藤委員、山川委員、山崎委員

(2) 政府側

宇宙開発戦略推進事務局 高田事務局長、佐伯審議官、高見参事官、松井参事官、佐藤参事官、守山参事官

文部科学省 堀内宇宙利用政策課長

宇宙航空研究開発機構 常田理事（宇宙科学研究所長）

4. 議事次第

(1) 中間取りまとめ（平成28年度）について

(2) X線天文衛星「ひとみ」の異常事象について

(3) その他

5. 議事

(1) X線天文衛星「ひとみ」について

事務局から資料1、2-1、2-2、3に基づき、「X線天文衛星「ひとみ」の異常事象への対応と代替機の開発について(案)」説明があり、審議を行った。審議の結果、「X線天文衛星「ひとみ」の異常事象への対応と代替機の開発について(案)」を、委員会として了承した。委員から以下の意見があった。

○計4回、小委員会でこの問題を議論した。当初原因究明で、それに対する対策ということで、それが十分かどうかという議論を行い、文科省の事故調査報告で、こういうことが原因でこのように対策をとりますという案について、主として検討した。いろいろ足りない、まだそこで尽くされていない議論もあるのではないかとということで、さまざまな指摘があり、参考資料2にあるようなプロジェクトマネジメント体制の見直しや企業との役割・責任分担の見直し以下、ここに挙げられている内容について詳細をもう少しきちんとまとめてほしいということで、このような報告を受けた。こういう対策をとったら、今回のような事象は本当に防げるのか。今回の事象がまずはき

っかけなので、それがこういう対策で十分防げるのかということで、例として検討し、その後、小さな問題から大きな問題まで、全部含めてこのような対策で十分なのか。特に言葉としては、いろいろな段階で指摘された問題を気づきというか、こういうことがあったというものをどうやって蓄積して、将来の事故を防ぐ対策につなげていくかというところで、かなり具体的な議論をしてもらい、十分それで今後、対応できるのではないかと思う。ただし、そのためには、かなり人的な支援が必要であると。ISASだけではとても人的な資源を賄えないのではないかということで、JAXA全体でそれをきちんとやっていこうということになり、ここにあるようないろいろなより具体的な対策が提案された。それで十分ではないかというのが宇宙科学・探査小委員会の判断で、その件については、対策としては了承しそういう対策ができるという上で「ひとみ」の代替機をどうするかという議論をしたが、これは初めての事態であるので、この議論が将来、こういうことが起こり得る。色々な事故とか失敗は起こり得るわけであるから、そのときに参考になるような議論という形でやろうということで、かなり代替機の開発についての議論も慎重に行い、今回の場合は幸いという言い方はおかしいが、いろいろな意味で影響が少なくできるということで「ひとみ」の代替機を開発するのが適当ではないかということになった。その際、いろいろな意見が出ており、ここには尽くされないぐらいたくさん議論が出ており、まだ今すぐに改革できないことも含めて、色々なことがあるわけだが、それはJAXA、ISAS所長のほうできちんと対応する。とにかくできるだけ早い期間に対応するというので、我々としても了承した。（松井委員長代理）

○宇宙科学・探査小委員会での議論を受け、宇宙産業・科学技術基盤部会において、さらに議論した。参考資料3は8月18日の基盤部会の議事要旨であるが、さまざまな意見を改めて伺った上で議論をし、さらに、ISASのマネジメントへの影響、今年度中に何をするのか、あるいはクリティカルな改善要素は何か。そういったさまざまな観点でさらに議論を重ねた上で、探査小委員会での結論の方向性を堅持しつつ、多少の文言の修正を行うということで、できたのが今回の資料2-1と資料2-2になる。（山川委員）

○宇宙科学・探査小委員会と産業・科学技術基盤部会とで議論してきたこの内容に、賛同している。代替機の開発を行うということで、日本としても宇宙科学の分野で世界に貢献するという意思を大きく示すということで、非常に期待も強いと思う。着実にミッションを行ってほしい。ほかのミッションへの影響を最小限にとどめているということで、そちらの努力に対しても感謝したいと思うが、多様な小規模プロジェクトに、ついしわ寄せが来ないかどうかということが懸念であり、人材育成の観点が非常に大切だということは資料の中でも述べられている。そのため、その観点から、多

様な小規模プロジェクトのほうも大切にしつつ、人材育成を視野に入れつつ、全体として行ってほしい。（山崎委員）

（２）宇宙基本計画工程表改訂に向けた進め方

事務局より資料４に基づき宇宙基本計画工程表改訂に向けた進め方について説明があり、内容について了承された。委員から以下の意見があった。

○安倍総理の指示が宇宙２法案と準天頂衛星関連の技術とビジネスモデル、海外展開ということで、非常に明確な指示だと考える。宇宙産業・科学技術基盤部会としてもそれらの点を重点的に進めていければと考えている。（山川委員）

以上